*Bulletin of the Educational Research and Development, Faculty of Education, Kagoshima University*
2015, Vol.24, 263-268

論 文

# 子どもが生き生きとコミュニケーションを図る中学年の英語活動の創造

阿久根　　崇［鹿児島大学教育学部附属小学校］

**Creation of English activities of middle grade the child is both promote communicate vividly**

AKUNE Takashi

**キーワード：英語活動、中学年、コミュニケーション、体験的な活動、目的**

## 1　研究の背景

現在、グローバル化が急速に進展している。物流ネットワークの発展による貿易の拡大、金融の国際化、通信技術の発達による情報の共有化、航空技術の発達による人的交流の活性化等、あらゆる分野において、国家や地域の境を越えて地球規模での連携が深化している。そして、このようなグローバル化の波は、今後のさらなる科学技術の発展と社会の高度化によって、より一層加速していくことが予想される。

これからのグローバル社会でよりよく生きるためには、異なる文化的背景をもつ人々に適切に発信したり、異なる価値観を認めながら相手を受容したりして、共存していく資質や能力が求められる。さらに、そのための手段としての、コミュニケーション能力はますます重要となる。

このようなコミュニケーション能力を子どもたちに養うために、学校教育が果たす役割や責任は大きい。

現在の小学校教育においては、コミュニケーション能力の素地を養うことを目標として、第５・６学年において外国語活動が実施されている。平成23年度からの実施により、現在、３年を経過したところであるが、文部科学省によると以下のような成果や課題が示されている。

**成果**
○小学生の76％が「英語の学習が好き」と回答。
○小学生の91.5％が「英語が使えるようになりたい」と回答。
（平成25年度　全国学力・学習状況調査）

**課題**
○小学校高学年は、抽象的な思考力が高まる段階であるにも関わらず、体系的に学習を積んでいないがために、学習内容に飽き足らない児童が見られる。
・中学生の７割以上が小学校で「英単語・英語の文を読むこと」、８割が「英語の単語・文を書くこと」をしておきたかったと回答。
文部科学省（2014）英語教育の在り方に関する有識者会議【資料３－１】小学校における外国語活動の現状・成果・課題

以上の成果と課題から、現在の小学校外国語活動においては、英語学習に対する関心・意欲の向上は成果として捉えることができると考える。一方で、「文法的な内容は扱わない」「文字の読み書きは行わない」という目標や学習内容の設定については、今後議論の余地があると考える。

そんな中、文部科学省は平成25年12月に「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」を発表した。この計画の中で、文科省は今後の方向性として次のように明示している。

○小学校中学年：活動型・週１～２コマ程度
・コミュニケーション能力の素地を養う
・学級担任を中心に指導
○小学校高学年：教科型・週３コマ程度
・初歩的な英語の運用能力を養う
・英語指導力を備えた学級担任に加えて専科教員の積極的配置
文部科学省（2013）グローバル化に対応した英語教育改革実施計画

つまり、2020年度には、小学校高学年におい

て「初歩的な英語運用能力を養う」ことを目的として教科化し、そのために必要な素地を中学年における外国語活動を通して養っていくという方向性が現在の国の動向である。

そのため、本校が現在行っている「高学年における教科化を見据えた英語教育の在り方」や本研究である「教科化につながる中学年における外国語活動の在り方」についての研究、実践をすることは先進的であり、価値があるものであると考える。

特に、中学年の子どもたちの発達の段階を踏まえた外国語活動の目標、内容、方法について研究、実践することは、今後の外国語活動及び外国語科の在り方を探る際の有力な情報となるだけでなく、現在の学習指導要領のもとで実施されている外国語活動にも内容・方法面で通じるところが多く、県下の学校にも広く寄与することができるものであると考えられる。

## 2　研究の方向

現在全国で実施されている外国語活動の授業では、ゲーム活動やスキット作り等の体験的な活動を取り入れ、活動を楽しみながら自然に英語の音声や表現に触れるような活動が展開されている。それは、小学生の子どもの発達段階から、多くの表現を身に付けたり細かい文法事項を覚えたりするような学習内容及び学習活動では、子どもの学習への関心・意欲を持続、高揚させることは難しいと考えられるためである。

本校では、表１のような目標のもと、第５・６学年において外国語活動、第１～４学年において英語活動を実施している。そして、表２からも分かるとおり、本校においても、特に英語活動では、ゲーム活動やスキット作り等の楽しい活動が学習活動の中心となっている。

このような学習活動を通して、多くの学校で子どもたちの英語学習への興味・関心の高さが見られる一方で、「子どもたちの興味・関心が、ゲーム等のいわゆる『活動の楽しさ』に留まってしまっている」といった課題が挙げられることも多い。それは、ゲームやスキット作り等の活動が学習の目的になってしまい、子どもたちが英語でコミュニケーションを図る目的や必要感をもてていなかったことが原因であると考えられる。

そこで、英語を使った活動に楽しく取り組みながらも、「コミュニケーションを図る楽しさや大切さ」を子どもたちに味わわせなければ、現在の外国語活動及び本校の英語活動の目標を達成することができないし、今後外国語科として高学年で教科化した際に、そのための素地を育む「中学年での土台作り」ともなり得ないと考える。

そのため、ゲームやスキット等の活動を手段として捉え、これらの活動を通して英語に慣れ親しませた上で、目的に応じて工夫しながら自分の思いや考えを伝えたり、他者理解したりするような活動や学習過程を設定することが必要である。

よって、本研究では、コミュニケーションの目的や必然性を明確にもたせ、子どもたちが友達やALT、HRTと生き生きとコミュニケーションを図ることができ、さらには、コミュニケーションを図ることを通して達成感を味わったり自己肯定感を高めたりすることができると考え、次のようなテーマを設定し研究を進めることにした。

| |
|---|
| 子どもが生き生きとコミュニケーションを図る中学年の英語活動の創造 |

**表１　外国語活動及び英語活動の目標**

| 学年 | 領域名 | 目　　標 |
|---|---|---|
| 第６学年 | 外国語活動 | 外国語を通じて，言語や文化について体験的に理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら，コミュニケーション能力の素地を養う。<br>※　英語活動の定義・・・英語に触れたり，外国の文化等に慣れ親しんだりするような体験活動であり，外国語活動の目標，内容等をより具現化しやすくするための活動である。 |
| 第５学年 | | |
| 第４学年<br>第３学年<br>第２学年<br>第１学年 | 英語活動 | |

**表２　中学年英語活動の主な学習内容及び活動**

| 学年 | 主な学習内容 | | | 学習活動 |
|---|---|---|---|---|
| | 単元名 | 内容・場面等 | 語彙や表現 | |
| 3 | 英語でゲームを楽しもう～何曜日かな～ | あいさつ，自己紹介 | Hello/What day is it today? /It's Monday. | ゲーム活動 |
| | Tom の学校 | 学校生活 | Let' begin our English class /Good morning | ゲーム活動 スキット作り |
| | ハローワールド | 国の特徴 | Japan/Italy/America/France | ゲーム活動 |
| | 今，何時かな？ | 時間を表す英語 | What time is it? /It's 6:30 | ゲーム活動 |
| | もの当てゲーム | 身の回りにある物の英語 | It's fruits/It's green/What's this? | ゲーム活動 |
| | ジャコランタンを作ろう | ハロウィンに関する英語 | vampire/skeleton/mammy | 創作活動 |
| | Tom の一日 | 生活の様子を表す場面 | Wake up/Wash your face/ Eat a breakfast/ | ゲーム活動 スキット作り |
| | 歌を歌おう | 英語の歌 | If you're happy and you know it, clap your hand | 英語の歌を歌う |
| | ごきげんいかが？ | 気持ちを表す英語 | How are you?/I'm fine/ happy/hungry/angry | ゲーム活動 |
| 4 | 英語でゲームを楽しもう | あいさつ，自己紹介 | Hello/What's your name? What ○○ do you like? | ゲーム活動 |
| | Tom の友達 | 遊び | Do you like soccer?/Yes, I do/ Let's play soccer/ | ゲーム活動 スキット作り |
| | ハローワールド | 国の特徴 | China/Brazil/South Korea | ゲーム活動 |
| | 場所当てゲームをしよう | 場所を表す英語 | on/under/behind/in | ゲーム活動 |
| | Tom の町 | 建物を表す英語 | Gas station/School/Park/ Pet shop/ | ゲーム活動 スキット作り |
| | 買い物ゲームをしよう | 買い物の場面 | May I helpyou?/ Jacket, please/Oh,It's too big. | ゲーム活動 スキット作り |
| | Tom の冒険 | 道案内 | Turn left/right/go straight / go back/ | ゲーム活動 スキット作り |
| | 絵本を楽しもう！ | 絵本の読み聞かせ | I see ～/Animal/Color | 絵本作り |

### 3　子どもが生き生きとコミュニケーションを図る英語活動の授業とは

英語活動とは、前述の表１のとおり、本校で第１～第４学年で実施している英語教育で、英語に触れたり、外国の文化等に慣れ親しんだりするような体験活動であり、外国語活動の目標、内容等をより具現化しやすくするための活動である。

また、子どもが生き生きとコミュニケーションを図るとは、子どもがコミュニケーションを図る目的を明確にするとともに英語を使う必要感をもち、慣れ親しんだ英語を使って工夫しながら互いの意志や思いを伝え合い、コミュニケーションを図ることのできた達成感を味わいながら、英語を用いたコミュニケーションへの意欲をさらに高めていくことであると考える。

よって、子どもが生き生きとコミュニケーションを図る英語活動の授業とは、低・中学年の子どもの発達段階を踏まえたコミュニケーション場面を設定し、子どもが活動を楽しみながら、友達やALT、HRT と生き生きとコミュニケーションを

図る学習の創造であると考える。

## 4　子どもが生き生きとコミュニケーションを図る英語活動の創造にあたって

### (1)　子どもが生き生きとコミュニケーションを図る学習内容の設定の要件

本校の外国語活動及び英語活動では、前述の表２のような学習内容を設定している。そこで、これらの学習内容を子どもの実態に合わせてさらに授業に具現化していくために、次のような要件を踏まえていく。

○　コミュニケーションの目的を明確にする。

「何のためにコミュニケーションを図るのか」「コミュニケーションを通して、どんな情報を得たり与えたりすることができるのか」等のコミュニケーションの目的を子どもに見通させるために、子どもの実態を踏まえて、単元や一単位時間のコミュニケーションの目的を明確に設定しておく。

○　コミュニケーションの相手を設定する。

友達やALT、HRT、JTEに加え、他学年の児童や海外からの訪問者等、様々な相手とコミュニケーションを図ることができるようにする。

○　身に付けさせたいコミュニケーションの方法を明確にする。

与えられた形式を単に復唱するような擬似的なコミュニケーションではなく、相手や場面、目的に応じて、使用する英語、立ち位置や目の高さ、声、表情等、効果的なコミュニケーションの在り方について考えさせるために、これらについて明確にしておく。

### (2)　子どもが生き生きとコミュニケーションを図る学習方法

子どもが生き生きとコミュニケーションを図るために、題材や必要な英語を導入する際の工 夫や慣れ親しむための活動の設定の仕方、コミュニケーションを図った後に達成感を味わわせるための手立て等、指導方法を工夫する必要がある。

具体的には次のような働きかけが大切である。

○　題材や必要な英語を導入する際の工夫

題材や必要な英語を導入するにあたって、音声のみで導入するのではなく、ICT機器を活用して写真や映像と音声をセットにして導入したり、スキット等でコミュニケーションの場面を示したりする。導入した後、文化や言語を観点にして、日本と外国の違いを比較させる。

○　慣れ親しむ活動の設定

単に楽しいゲーム活動を設定するのではなく、「ターゲットとなる英語を繰り返し使うことができる」「コミュニケーションが自然である」「ルールが誰にでも分かる」「聞く活動から話す活動へ段階的に移行できる」等の工夫をして活動を設定し、英語に慣れ親しませる。

○　効果的なコミュニケーションの在り方について考えさせるための手立て

効果的なコミュニケーションの在り方について考えさせるために、ワークシートや板書を通して子どもの考えを可視化できるようにしたり、コミュニケーションの在り方について友達と見せ合いながら比べたりする活動を設定する。

○　振り返りの手立て

他者評価を取り入れたり、ワークシートを用いたりする等して、子どもが単元や一単位時間の学びを通したの自分の高まりや達成感を味わえるようにする。

**【第３学年　「Tomの学校」ワークシート写真】**

## 5　子どもが生き生きとコミュニケーションを図る英語活動の授業の実際

これまでの研究内容を反映し、実践を行った。単元の導入において、普段の生活でのあいさつをビデオを通して振り返らせた後、「目指せ！世界に通じるあいさつ名人」と単元の目標を設定し、単元の学習への目的意識をもたせた。さらに、一

単位時間ごとに「声量」「表情」「応答の仕方」の観点でよりよいコミュニケーションの図り方を考えさせ、英語を使って実際にあいさつをし合う活動を設定した。

### (1) 本時の目標

あいさつの場面で、相手に応答しながら会話を継続するために、その必要性に気付き“Good”“O.K.”等の必要な英語表現に慣れ親しみながら、それらを用いて積極的に会話をしようとする。

### (2) 本時の展開にあたって

よりよくあいさつをしたり調子を伝え合ったりするために、活動の際に「聞き取りやすい声量」「あいさつに適した表情」「相手への応答」の３つの観点をもとに相互評価や自己評価をさせる。

### (3) 実際

| 過程 | 主な学習活動 | 主な語彙や表現 | 時間 | 教師の具体的な働きかけ |
|---|---|---|---|---|
| 意欲をもつ | 1 Greeting<br>2 Sing a song<br>“Hello song”<br>3 Watching Video<br>4 Meeting Today's Target<br>相手の調子に合わせて，会話を続けてみよう。 | A:Hello,Mr.Akune.<br>H:Hi.Mr.Sneller.<br>A:How are you?<br>H:I'm fine,thank you.<br>And you?<br>A:Oh, good. Fine, thank you. | 10 | ○相手の“I'm fine.”“I'm tired.”等の様子を踏まえて，“Good”“Are you O.K?”等と応答する必要感をもたせるために，“I'm tired.”と答えた後に相手に応答しない VTR を提示し，表情から会話がうまくいかなかったことに気付かせる。さらに，「どのように工夫すればよいか。」と問う。 |
| つかむ | 5 Practice<br>6 Rhythm Chants<br>少しずつ言い方が分かってきたよ。<br>7 Guessing Card Game | Hi. How are you?<br>I'm fine / I'm hungry / I'm happy / I'm sleepy / I'm tired / I'm sad<br>Good / Me,too / Great / Are you O.K.? / That's too bad | 10 | ○PracticeやRhythum Chantsでは，相手の調子と“Good”“Are you O.K?”等の応じ方を関係付けて捉えさせるために，調子を伝える絵と応じ方の絵を対応させて提示し，視覚的に捉えさせながら復唱させる。 |
| 挑戦する・広げる | 相手のもっているカードをあてるゲーム。<br>① 表に感情の絵がかかれたカード，裏に応答の絵がかかれたカードを一枚ずつもらう。<br>② 友達とじゃんけんし，勝った方だけにチャンスがある。<br>③ 感情の絵をヒントにして相手の応答の仕方をあてる。<br>8 Talking Time<br> <br>“I'm happy.”って言っていたから，“Me,too.”って返したよ。<br>言ったことに対して答えてくれたから，うれしいな。 | | 20 | ○あいさつをしたり調子を伝えあったりする際の観点を明確にもたせるために，Guessing Card Game 後に数名の子どもに模範をさせ，「よいと思うところはどんなところか」と全体に問うことで，「聞き取りやすい声量」「あいさつに適した表情」「相手への応答」に観点を焦点化し，Talking Time へと展開する。 |
| 振り返る | “I'm fine.”や“I'm good.”に対して，“O.K.”や“Good.”と返せばといいことが分かったよ。<br>9 Reflection<br>10 Ending<br> <br>次はクラスのみんなとあいさつしたいな。 | | 5 | ○ Talking Time での活動を通して，あいさつの場面における現時点での自分の成果と課題を明確にさせるために，活動をしながら上の３つの観点で互いのワークシートに相互評価をさせる。 |

### ⑷　結果と考察

○　日常の学校生活において生活努力目標で「あいさつ」について取り組んでいたため「世界に通じるあいさつ名人を目指す」という単元の目的は子どもの実態に沿ったものであり、単元を通して英語学習への関心・意欲の高まりが見られた。

○　生活経験と関連させたことにより、英語活動の授業内でのあいさつのみならず、日常生活でもあいさつへの意識が高まった。

○　ゲーム活動で必要な英語に慣れ親しんだ後、友達やALT、HRTとあいさつをしたり気分を尋ね合ったりする実際のコミュニケーション活動を設定したことで、学びの有用感や学んだことを生かすことのできた達成感を味わわせることができた。

## 6　研究の成果と課題

### ⑴　成果

○　本校で設定している学習内容を具現化する際の要件を踏まえるとともに、学習方法を工夫したことで、子どもが目的に応じて学び、生き生きとコミュニケーションを図る姿が見られた。

### ⑵　課題

○　子どもの発達段階や系統性を踏まえながら、他単元、他学年においてもさらに実践し、汎用性を高める必要がある。

【主な参考文献】

○文部科学省「小学校学習指導要領」（東洋館出版社　平成20年度）

○文部科学省（2014）英語教育の在り方に関する有識者会議【資料３－１】小学校における外国語活動の現状・成果・課題
mext.go.jp（参照日2014.9.24）

○文部科学省（2013）グローバル化に対応した英語教育改革実施計画
mext.go.jp（参照日2014.9.24）